



# 子育てチャンネル

## “4つの間”がなくなっている子どもたち

昨年、中学2年、小学5年の男女で行われる「全国体力テスト」の2014年結果が発表されました。北海道の中学2年（男、女）がともに最下位、小学5年（男、女）も下位に位置しているという記憶も新しい中、先日は「学校保健統計調査」道内の5〜17歳の子どもの肥満傾向が、すべて全国平均を上回り、特に男子では9〜12歳の各年齢で都道府県別のトップという結果が出てしまいました。

幼児体育にかかわっている一人として、とても残念に思うと同時に、将来に不安を覚えずにはられません。子ども時代の肥満はそこだけにとどまらず、そのまま生活習慣病を抱えた大人へと移行していくこともあるからです。

北海道は、雪という避けられない条件があり、親心としてつい寒い通学路を車で送り迎えしたい気持ちも分かります。

ですが、雪に足をとられたり、転びそうになる体を支えたり、危なくない転び方を覚えるチャンスの目を摘んでしまうことになっていないでしょうか。

子どもを取り巻く環境は、今の親世代になってから様変わりしました。ゲーム機の進化もさることながら、

習いごとや危険なことも多く、遊ぶための時間、空間、仲間、といっ

いわゆる“3つの間”がなくなっただけといわれています。現在、さらにもう一つの“間”、「手間」が加わり、“4つの間”といわれます。遊ぶ環境を作ったり、一緒に遊んだり…。

家庭では、つい「テレビを

見せたまま」「ゲームをさせたまま」になっていないでしょうか？

運動することで覚える「努力する心」と「自信」

都会では、放課後に昔ながらの「鬼ごっこ」や



「缶蹴り」などを教える指導者もいるそうです。中でも一番人気は相撲だそうです。実際、私のかかわっている子ども達も相撲をする

「やっ」と言つと、男女問わず「やったく」と歓声があがります。特に、最後に先生と対戦する時の目の輝きは、真剣そのもので頼もしいものです。力の限りを出し、相手とぶつかる。大きな相手にも勝機はあるし、弱い相手には手加減もある。

対戦型ゲームでは味わえない汗を感じることができるのでしよう。

前出の体力テストの際に併せて行われたアンケート分析結果では、幼児期に体を動かす遊びをしていた子どもは、体力、運動能力が高い傾向があることが分かっています。

体力テストのトップは福井県で、すべての学年で1位です。おもしろいことに、全国学力テストでも福井県は小学5年（男、女）で1位、中学2年も上位にいます。ちなみに、北海道は全国平均を下回っています。この結果を見て、運動を通して、「努力する心」「頑張ったからできたという自信」が育ち、それが勉強、さらにその子の人生の生き方にも大きく通じている気がしてなりません。

幼児体育インストラクター

大浦厚子